

CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築)

■ 評価結果 ■

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版\_追補版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v2.3.4)

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	(仮称)オートバックス西日本DC	階数	地上1F		
建設地	兵庫県三木市	構造	S造		
用途地域	区域区分非設定	平均居住人員	2 人		
地域区分	6地域	年間使用時間	2,160 時間/年(想定値)		
建物用途	工場,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2025年9月 予定	評価の実施日	2024年12月15日		
敷地面積	17,189 m <sup>2</sup>	作成者	村上 朝		
建築面積	3,422 m <sup>2</sup>	確認日	2024年12月24日		
延床面積	3,485 m <sup>2</sup>	確認者	岸 昌幸		

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE =0.7

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.3

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.7

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 1.5

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.0

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.2

LR3 敷地外環境 LR3のスコア=3.3

3 設計上の配慮事項		
総合	常温倉庫という用途上、配慮すべき項目が少ないが、可能な限り環境配慮を行っている。	その他 0
Q1 室内環境	シックハウス対策として使用する建材はF☆☆☆☆とし、化学汚染物質による汚染対策に配慮している。また居室ではオーバースライダーにより広く開口部を設けることで、室内環境の向上に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 立地条件や既存棟への増築という制約があり、室外環境への配慮は難しいが、ルーフファンの採用により、排熱・換気等に配慮している。
LR1 エネルギー	空調設備を設置しない常温倉庫であるため、消費エネルギーが少なく、結果的に環境配慮につながっている。	LR3 敷地外環境 燃焼機器を設置しないことや屋外広告照明を行わないことで、敷地外環境への配慮としている。
Q2 サービス性能	用途上、外部からの来客は想定していないため、該当する項目が少ないが、執務者の作業環境、快適性に配慮した計画としている。	
LR2 資源・マテリアル	内装材を使用しないため、更新・改修・解体等の再利用可能性向上に配慮している。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される